

令和2年度 横浜市立四季の森小学校 学校だより

このまちに生き、共に輝く子

ねばり強く取り組む子 思いやりのある子 命を大切にする子 地域に愛着をもつ子 社会への視野を広げる子



四季の森

12月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shikinomori/>

自分でおもしろくする

校長 笹原 洋子

12月の声を聞くと、もう1年が終わるのかと思い、月日の流れの早さを感じずにはいられません。特に今年は、コロナ禍ということで、例年と同じことができず、変更を追われた1年が過ぎようとしています。保護者の皆様には、様々な面においてご理解、ご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。

10月末から11月にかけて、それぞれの学年が遠足や宿泊学習の代替の校外学習へ行きました。1、2年生はズーラシア、3年生は四季の森公園、4年生は愛川ふれあいの村、5年生は三浦、6年生はみなとみらいです。それぞれの学年に応じた目的をもって、友達と協力しながら学習したり、思い出を作ったりしてきました。

その中で印象的なのは6年生です。例年なら日光へ修学旅行に行きますが、今年は「地元・横浜の魅力を再発見しよう」を目的の一つとした日帰り校外学習でした。既に何度も行ったことがあったかも知れませんが、「楽しもう！」という気持ちが伝わってきました。

バスに乗った時の人数確認のやり方は、「さすが6年生！」と感心するほど、スムーズにできました。それぞれが窓際の席に座り、おしゃべりはできませんが、友達と一緒に活動を楽しんでいるようで、笑顔がいっぱいでした。カップヌードルミュージアムでは安藤百福氏の努力に感心し、三溪園では、うっすらと見えている富士山を見つけて「わ～、富士山見つけた！」と喜んでいました。

先日、新聞広告で高濱正伸氏の「メシが食える大人になる！もっとよのなかルールブック」という本が紹介され、その本に書かれている、「よのなかのルール」の一部が掲載されました。その中に、「自分でおもしろくすること」が大事という内容のルールが書いてありました。6年生の子ども達は、まさにそれができる子どもに成長していました。

今のコロナの感染状況を考えると、しばらくは先が見えにくい状況が続きそうです。やりたくてもできないことも出てくるかも知れませんが、そんな中でも、子ども達だけではなく、大人も「自分でおもしろくする」よう努力していきたいものです。ちなみに、先ほど紹介した本に『よのなかはそんなに甘くない。それでも「この世界はいいもの」と信じる。』というルールもありました。来年が、よい年になるよう信じましょう！

令和2年、大変お世話になりました。令和3年も、引き続きよろしく願いいたします。